

【研究分担課題】 患者が地域の保険薬局を選んだ時に対応できるシステム作りに関する研究
 研究分担者：鈴木貴明 千葉大学医学部附属病院薬剤部 准教授・副薬剤部長

研究要旨：処方箋に基づき薬剤を調剤・交付する役割のある保険薬局において、地域連携を図る際の課題を明白とするとともに、実践可能なモデルや方法を提案する。

A. 研究目的

現在、抗HIV薬の調剤はHIV診療拠点病院周辺の保険薬局を中心に行われている。今後地域連携が推進された場合、患者が地域の保険薬局での調剤を希望することも想定される。このような場合にすべての保険薬局がスムーズに抗HIV薬の調剤に対応できるよう、服薬指導を支援するツールの作成と複数の薬局が抗HIV薬の在庫情報管理を行えるシステムの構築を行う。

B. 研究方法

1. 抗HIV薬調剤時における服薬指導重要項目の作成

千葉県HIV拠点病院10施設のHIV担当薬剤師を対象に、抗HIV薬に関する服薬指導で重要な項目についてアンケートによる調査を行った。また千葉県HIV拠点病院会議 薬剤師部会にてその他必要・不要な項目について議論し、最終的な服薬指導重要項目を作成した。

2. 抗HIV薬の在庫情報管理システムの構築と評価

対象薬を抗HIV薬ならびにC型肝炎治療薬、対象施設を千葉大学病院の近隣5薬局とし、クラウド在庫管理ソフト「ZAICO」(<https://www.zaico.co.jp/>)を用いた在庫管理システムを試験的に運用した。

対象薬剤の在庫数更新方法は、以下より施設ごとに選択した。

- ・ 手動で数字を入力する方法(以下、方法①)
- ・ 薬局の在庫CSVファイルをインポート可能なファイルに変換し、対象薬の在庫情報を一括で更新する方法(以下、方法②)

本在庫管理システムを通じた譲受履歴を調査し、使用後にアンケートを実施した。

C. 研究結果

1. 抗HIV薬調剤時における服薬指導重要項目の作成

千葉県HIV拠点病院薬剤師部会での討議により、保険薬局における抗HIV薬交付時の服薬指導重要項目を作成した(図1)。

2. 抗HIV薬の在庫情報管理システムの構築と評価 システムを通じた譲受履歴と使用後のアンケート についてまとめた(図2)。

院外薬局における服薬指導で特に重要な項目	
確認項目	指導項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗HIV薬変更の有無 ・ 臨床検査値(病院のみ) ・ 服薬状況 ・ 残薬状況 ・ 体調の変化(副作用) ・ 薬物相互作用 ・ ライフスタイルの変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服薬を継続すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 服薬の重要性 ・ 飲み忘れ対応策提示 ・ 飲み忘れ予防策を提示 ・ 副作用 ・ 治療目標の共有

図1. 院外薬局における服薬指導で特に重要な項目

	薬局①	薬局②	薬局③	薬局④	薬局⑤
更新方法	方法①	方法①	方法①	方法②	方法②
更新の頻度	週1回	1-2週に1回	毎日	1-2週に1回一途中 でやらなくなった	毎日
システム利用	譲受目的に4回利用 3回譲受あり	利用無し	譲受目的に3回利用 2回譲受あり	利用無し	利用無し
有用性についての評価	有用と感じた	有用と感じない	有用と感じた	利用していないため わからない	利用していないため わからない

図2. システム利用歴と使用後のアンケート

D. 考察 E. 結論

1. 抗HIV薬調剤時における服薬指導重要項目の作成

服薬指導時の重点項目が明らかになり、薬剤師によりスムーズに抗HIV薬の服薬指導が行えることが期待される。

2. 抗HIV薬の在庫情報管理システムの構築と評価

システムを通じて薬剤譲受が行われており、抗HIV薬を含む高額医薬品の在庫情報の共有は有用であることが示唆されたが、可能な限り業務負担とならないシステムの構築が望ましい。

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

特になし